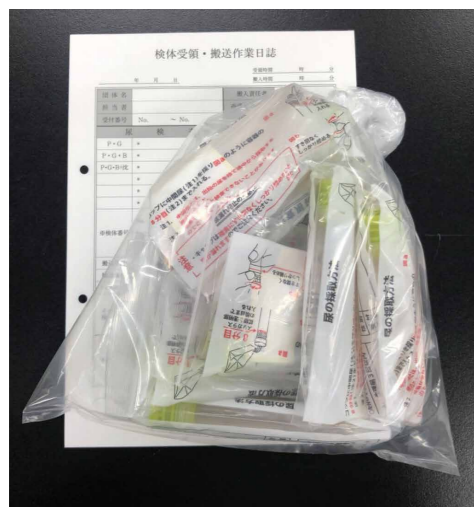


尿検査の流れ

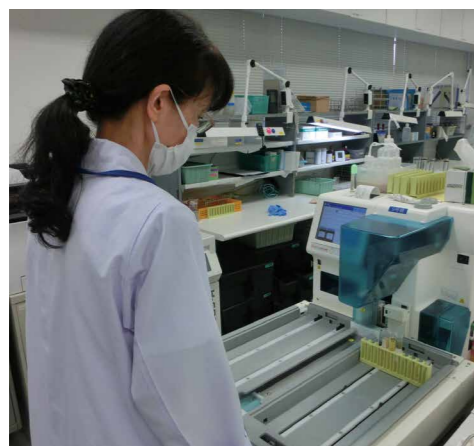
① 受診者が採尿した尿検体が搬入される



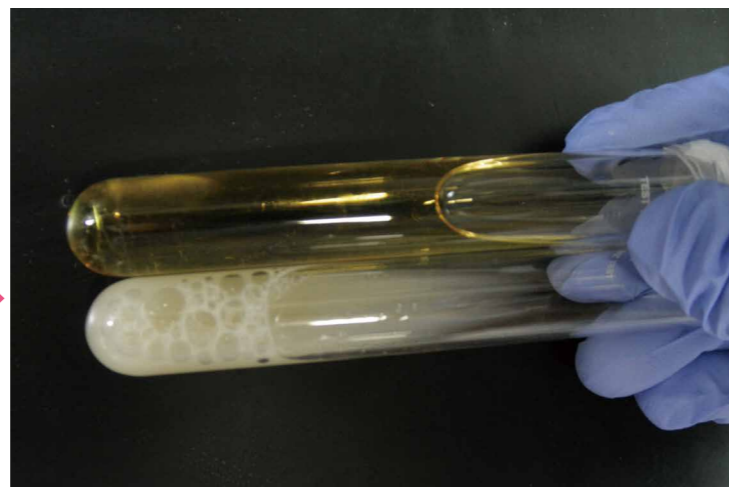
② 受診番号順に尿検体を並べる



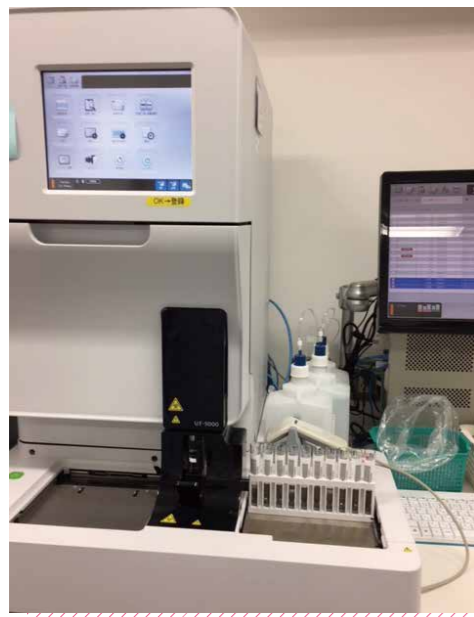
③ 全自動尿分析装置 (US-3500MS) で測定する (尿定性検査)



④ 尿蛋白の確認テストをする (スルホサリチル酸法)



⑤ 全自動尿中有形成成分分析装置 (UF5000) で測定する (尿沈渣検査)



⑥ 必要により顕微鏡で検査する



こんにちは!

検査研究センターです!

本会の検査研究センターの仕事をご紹介します。

検体検査二科



検体検査二科には、6人の検査技師が在籍しています。当科は施設内や出張で行う健康診断・がん検診のうち、主に尿検査と便潜血検査を担当しています。

尿検査と便潜血検査は、ともに非侵襲的検査で簡便かつ有用性が高いことから、スクリーニング検査として広く実施されています。

しかし、検体の採取を受診者本人に委ねるため、正しい方法で検体を採取していただくことがとても重要です。

☑ 尿検査

尿検査では腎臓、膀胱・尿管・尿道の病気その他、糖尿病や肝臓の病気なども発見することができます。

尿定性検査

全自動尿分析装置 (US-3500MS) を用いて、蛋白やブドウ糖、潜血、ケトン体、ウロビリノゲン、ビリルビン、亜硝酸塩、白血球、pHおよび比重などを測定します。

尿沈渣検査

全自動尿中有形成成分分析装置 (UF5000) を用いて尿中の成分を測定します。その後、赤血球、白血球、上皮細胞、各種円柱、結晶成分、細菌、異型細胞などの有形成分を、日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) の「尿沈渣検査法2010」に準じて分類します。

尿定性検査の結果と大きく異なる場合や、装置で測定できなかった場合などは、検査技師が顕微鏡で観察して報告します。

尿検査の注意点

誤った採尿をすると正しい結果が出ない場合があるので、以下の注意点をしっかり伝えます。

- ・尿検体袋に書かれた採尿の仕方を参考に採尿すること。
- ・必ず検査当日の尿を採る。早朝第1尿が望ましい。
- ・採尿後、提出まではできるだけ冷暗所で保存する。
- ・排尿後の便器からの採取はしない。
- ・尿の出始めと最後は外し、途中の尿 (中間尿) を採取する。
- ・採尿前日にはビタミンCを多く含む食品・飲料水・薬剤は摂取しない。
- ・尿に水を足さない。採取量が不安な場合は提出時に伝える。

☑ 便潜血検査

便潜血検査は、大腸がん疾患リスクのスクリーニング検査として行います。大腸がんが発生すると、多くの場合、下部消化管内で出血します。そのため、採取した便に血液（ヘモグロビン）が混ざっていれば大腸がんの可能性があると判断できます。毎年定期的に検診を行うことで、大腸がんの早期発見に効果があるとされています。

検査法

本会では、死亡率減少に効果があるとされる「便潜血検査2日法」*を推奨しています。金コロイド比色法（FOBIT WAKO II）にて、年間約9万件の検査を実施しています。

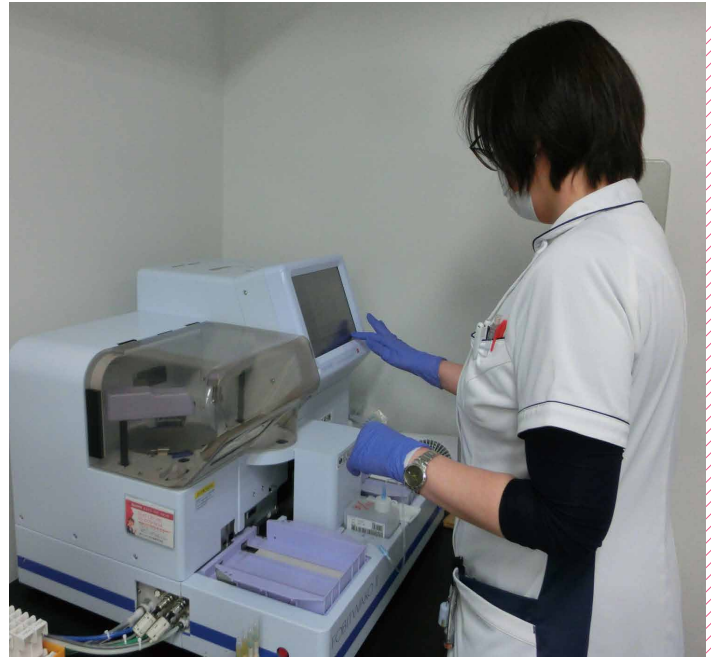
*2回（異なる日）の排便により、それぞれ採取した便を検査する方法。出血は必ずしも継続的ではないため、1日法より2日法の方が大腸出血の発見率が高くなる。

正しい検査を行うために

採便量が多かったり少なかったりすると、正しい結果が出ない場合があります。説明書通りに適量を採取していただく必要があります。

25℃（室温）保存では、時間経過とともにヘモグロビンの数値が下がってしまいます。そのため本会では、健診日を含めた1週間以内の採便とともに冷暗所保存をお願いしています。また、月経血でも陽性になってしまうため、生理日を避けた採便もお願いしています。

便潜血検査（FOBIT WAKO II）



当科では、正確な検査結果を提供できるように、日々の精度管理に加え、客観的な評価が得られる医師会などの外部精度管理調査に参加し、高い評価を得ています。

また各種学会や研修会に参加するとともに、定期的に勉強会を開催し、検査技術の維持・向上に努めています。



小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります（保険診療）。本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上睦美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木真理 跡見学園女子大学 心理学部特任教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第3火曜日 午後	第2木曜日 午後

前田美穂先生による
『貧血電話相談室』
養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします（無料）

開催日：第1水曜日 14時半～15時半



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 地域・学校保健事業部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

☎ 03-3269-1131